

造山第二古墳 (造山第2号古墳)

安川 満

遺跡の概要

造山第二古墳は造山古墳の西に位置する陪塚の1基です。現状で1辺約20m、高さ4mの方墳を呈しています。墳頂部には安山岩の板石が散乱するほか、造山古墳前方部上に第二古墳の石槨の蓋石と伝わる大型の安山岩石材があり、安山岩板石を積み上げた竪穴式石槨があったものと思われます。

平成9年(1997)、遊歩道の建設に際し丘陵と第二古墳墳丘の間から周溝と埴輪列が発見され、第二古墳墳丘が現状より一回り大きなものであること、外堤にあたる部分に埴輪列を備えることなどがわかりました。また、平成27年度(2015)の調査では東角の葺石及び周溝、北東辺の周溝を検出しました。

1, 平成9年度の調査

埴輪列は現状の第二古墳墳端から南へ約15mの位置から発見されました。第二古墳墳丘と平行に108本の埴輪が密集しており、5本の円筒埴輪をはさんで朝顔形埴輪と盾持人埴輪が交互に並べられています。第二古墳と埴輪列の間には葺石を伴う周溝があり、埴輪列の外側には細い溝状遺構が埴輪列に平行してあります。これらから埴輪列は第二古墳の外堤にあたる部分に並べられたものと考えられます。周溝内からは墳丘側から転落した埴輪も出土しており、円筒、朝顔、盾持人に加え蓋形などが見つっています。

2, 平成27年度の調査

第二古墳の北東側から東側に向け周溝を検出しました。特に東側では墳丘の角部分が見つかり、第二古墳が1辺40m程度、二段築成の大型方墳であることが確実となりました。周溝の葺石は地山に直接のせられており、掘方などはないことも観察できました。

3, まとめ

円筒埴輪は造山古墳のものと作山古墳のものちょうど間にあたる特徴を備えています。すべての埴輪が無黒班で、段幅は12cm程度、ヨコハケは静止痕がほとんどありませんが2段以上施されているようです。基底部のヨコハケは省略するものがほとんどで、最下段の突帯に押圧技法があるものがあります。かつては「殉死」の風習を視野に「陪塚」とされたものですが、造山古墳と若干の時期差があるようです。

ただ、検出した埴輪列は想定される第二古墳墳丘を大きく超えて南西側に延びており、第二古墳墳丘や周溝、外堤が南側でどうなっているかは課題があります。大阪府仲津山古墳に対する三ツ塚古墳(八嶋塚古墳・中山塚古墳・助太山古墳)のように巨大古墳一造山古墳に隣接して複数の方墳が並んでいるのかもしれない。

造山古墳の陪塚群は造山古墳と若干の時期差を持ちながら築かれていること、榊山古墳一渡来系遺物、千足古墳一九州の石室、石材などそれぞれに特徴があることがわかってきました。第二古墳は古墳群の中で唯一の方墳です。1辺40mという規模は、折敷山古墳や角力取山古墳など造山の王の政権下では最大級のもので、陪塚群の被葬者たちは、おそらくは造山の王と血縁的にも地縁的にも近い人たちで、榊山古墳＝対朝鮮半島の担当者、千足古墳＝対九州外交担当者のように、造山の王の政権を支えた人物なのでしょう。

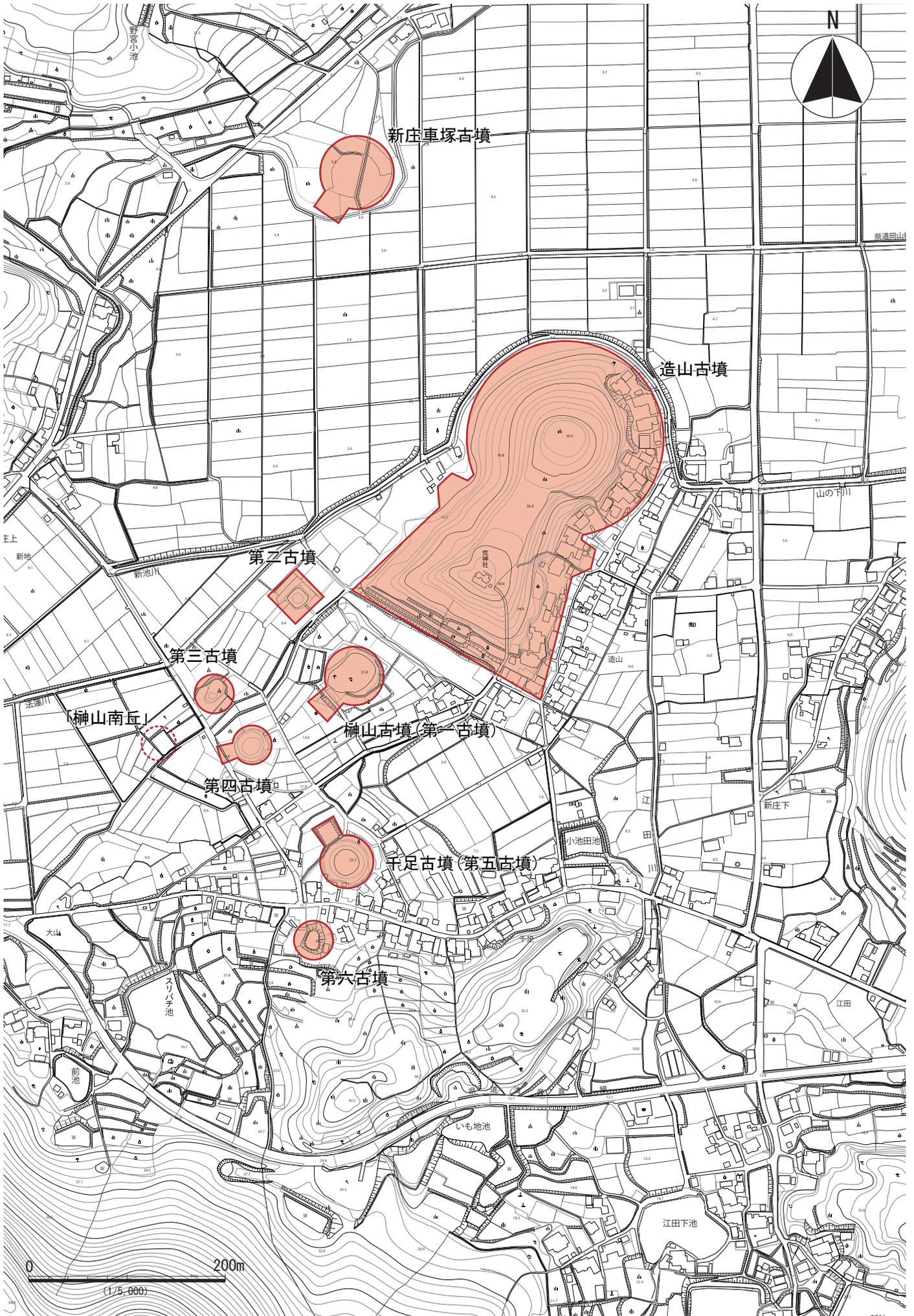
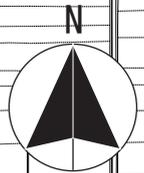
主な参考文献

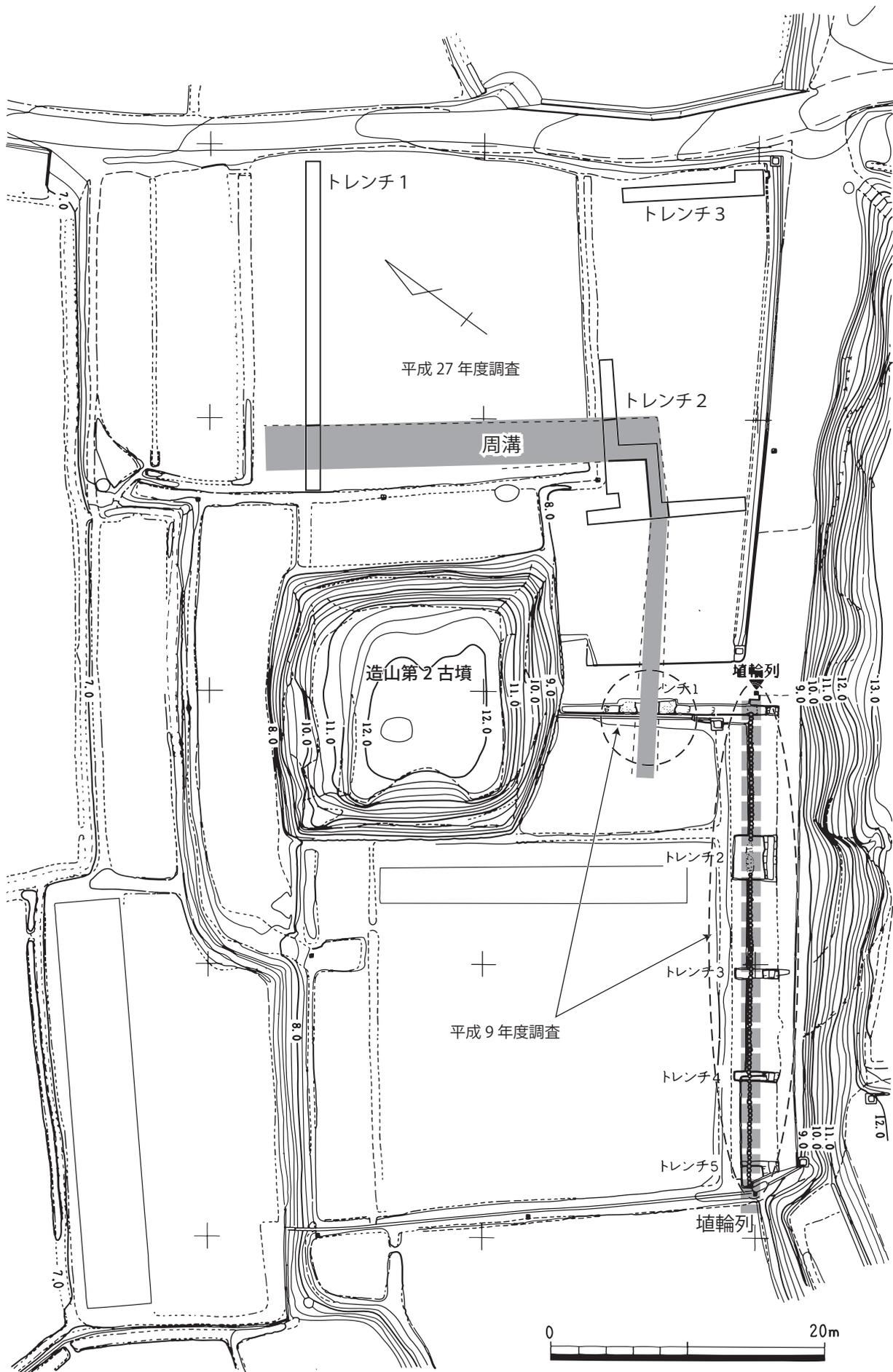
和田千吉 1919「備中都窪郡新庄下古墳」『考古学雑誌』第9巻第11号

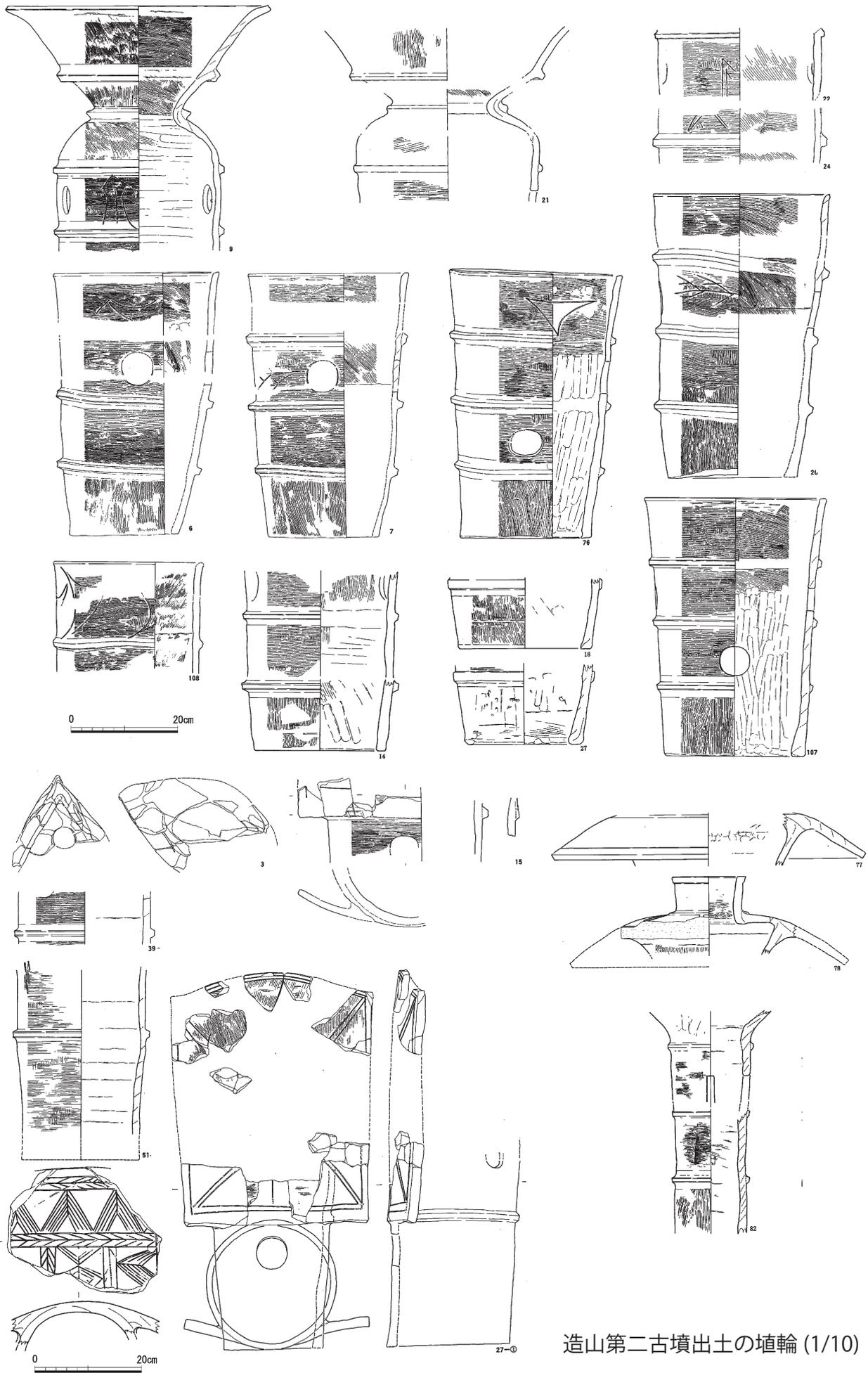
永山卯三郎 1930『岡山縣通史』上編

安川 満 2000『造山第2号古墳』岡山市教育委員会

西田和浩 2017「造山第2古墳」『岡山市埋蔵文化財センター年報』16 岡山市教育委員会







造山第二古墳出土の埴輪 (1/10)